

When will they ever learn?

—— Or Flowers of Ukraine ——



by Grandpa Eugene

Cover Illustration
Grandma Youme

この物語はフィクションです。
平和と音楽を愛する人たちの
強い願いから生まれた架空の物語です。

何ができるかわからない。思いついたことを試してみよう

小さな白い花が一輪、丘の上に咲いていました。

遠くに目をやると、雲一つない青空の下に、あたり一面のヒマワリ畑。

たくさんの黄色い花が、太陽に向かって胸を張っているように、咲き誇っていました

ピカッ！

一瞬の閃光に目がくらみ、彼は思わず目を閉じてしまいました。

再び目を開けたときには、ヒマワリ畑は白い煙に包まれ何も見えなくなり、目の前にあったはずの、可憐な白い花も消えていました。

ピートは夢を見ていたのです。いつもと同じのどかな朝を迎えたと思っていましたが、外はいつになく騒がしい様子になっています。

たくさんの人が、下の世界を見渡せる「約束の断崖」に向かって走っているのです。

ピートは目の前を走る少年に、「一体何が起こったの？」と尋ねました。

少年は「侵略戦争が始まった！」と叫び、約束の断崖に向かって再び走り始めました。

ピートも少年の後を追いました。

約束の断崖に着くとすでにたくさんの人が集まり、深いため息をついたり、涙を流していました。

みんなは両手の親指と人差し指で丸い円をつくり、両方の目にあてて下を覗き込んでいるのです。

ピートもそれをまねると、下の世界の景色がどんどん大きく見えるようになりました。

大きな地中海はすぐにわかりました。地中海の東側に、深い紺色の入江のような海がありました。その海の北岸のあたりにたくさんの煙が上がっているのです。

さらに指を内側に回すと、見えている世界がどんどん近づいてきます。

「あの海は黒海だ。侵略されているのはウクライナだ！」ピートはすぐに状況を理解しました

もっと指を回すと、町が大きくな近づいてきました。

戦闘機が爆弾を落とし、町や劇場を破壊。戦車がビルやアパートメントに向かって砲弾を発射。逃げ惑う町の人々に向かって、容赦ないライフルの連射が続いています。子供の手を引いた母親が、駆け足で防空壕に向かう必死の形相。まさに地獄のような風景が目の前にありました。

ピートはこの光景に、心の奥底までの深い痛みを感じましたが、「ウクライナ」という言葉に、思い出のスイッチが入りました。

今から67年も前の出来事です。ピートはオハイオ空港に向かう飛行機に乗っていました。うたた寝から覚めポケットに手を入れると、折りたたんだ紙に手が触れ、そこに3行のメモ書きがありました。ひと目見ただけで、それが何かをすぐに思い出しました。

ロシアの作家、ミハイル¹さんの本を読んだとき、記憶に残っていたコサックの子守歌の一節にヒントを得て、いつか歌にしようと書き留めて置いたものでした。

コサックとは、ウクライナを中心に居住していた乗馬の技に長けた軍事的共同体です。その強さを認め

¹ ミハイル・ショーロホフ(Mikhail Aleksandrovich Sholokhov)、1905年～1984年)

られ、傭兵として働くこともありました。

その勇敢さは、ニコライ・ゴーゴリ²の『隊長ブーリバ*³』という小説にも綴られています。

彼らの故郷であるウクライナは、東洋と西洋の間にあったので、長い間、西から攻められたり、東からの侵略にあっていました。そのたびに国の名前も変わっていました。

ミハイルさんの本⁴も、第一次世界大戦と、その後に続いたロシア革命の時代のコサックの物語でした。ピートの記憶に残っていた一節は、このような内容でした。

あしの葉はどこへ行った？
少女たちが刈り取った
少女たちはどこへ行った？
少女たちは嫁いでいった
どんな男に嫁いでいった？
ドン川のコサックのところに
そのコサックたちはどこへ行った？
戦争に行った

この子守歌の歌詞からインスピレーションを得て、
ピートが書き留めていたメモは、

花はどこへ？ 娘たちが摘み取った *Where are the flowers? The girls have plucked them.*
娘たちはどこへ？ みんな夫を見つけた *Where are the girls? They've taken husbands.*
夫たちはどこへ？ みんな軍隊に加わった *Where are the men? They're all in the army.*

……というものでした。

「いまこそ、あの歌を歌わなければ……。この日のためにあの歌はあったんだ」

ピートは心に決めて家に戻り、出発の準備をしました。

愛用の楽器を肩にかけたピートが、向かったのは「テラス ゼロ」でした。テラス ゼロとは、下の世界の様子を見る必要が生じたとき、係官に許可書をもらいカプセル移動できる場所です。

テラス ゼロの係官は、ピートとほぼ同年齢の、気のよさそうな笑顔が魅力的な男でした。

「手続きは簡単ですよ。この欄に下に降りる目的を書き、誓約書にサインをしてください。その目的に私が納得できたら、カプセルに乗ることができます。ただし、下に滞在できるのは1週間だけです。それを過ぎると、もうこちらには戻れなくなります」

「すると僕はどうなるのですか？」と尋ねたピートに、
係官は「もう何もなくなるのです。“無”になるのです」と答えました。

その言葉の意味を深く考えず、ピートは目的欄に

「ウクライナの侵略戦争を止めるため」と書きました。それを見た係官は、

「エッ、義勇兵としてウクライナに行くんですか？ 肩に担いでいるのはライフル銃ですか？」

² ロシアの作家 Nikolai Gogol 1809 年～1852 年

³ 英語タイトル“Taras Bulba”

⁴ 『静かなるドン』、英文タイトル“Quite flows of the Don”

と首をかしげながら質問しました。

「いいえ 私は歌手です。これは5弦バンジョーという楽器です」

「ほう、これがバンジョーですか、ちょっと見せてください」係官の求めに応じて、愛用のバンジョーをソフトケースから出しました。

係官はバンジョーを手に取り、いろいろな角度から眺めると、「私の知っているバンジョーとは違いますね。裏蓋もないし ネックも長いですね」と言いました。

「はい、私が特別注文でつくった楽器です。フレットが普通のものより3つ多いロングネック・オープンバック・バンジョーです」

「ああ、そうなんですね。しかし、これで戦争を止められるんですか？ 何か特別な仕掛けがあるものなんですか？」

「いえ、そういう意味の特別注文ではありません。このような素敵な音が出るだけです」

ピートが弦をはじくと心に響く音がしました。

「きれいな音ですね。この音に戦争を止める力があるんですね？」

「いえ、音色にも歌にもそんな力はありません。この楽器を弾きながら歌う歌は、人間にとって大切なことを伝える力と、凝り固まった心を柔らかくほぐす力があるだけです」

うん、うんと頷いていた係官は、「わかりました。行ってらっしゃい！」と大声で言い、スタンプをポンと押し、ニッコリ笑って言いました。

「実は、あなたの前の方も、ほとんど同じことを言っていました。彼がもっていたのはギターでしたけどね。まだ、待合室にいると思いますよ」

古い友だちなら言葉は少なくても、多くのことが伝わる

待合室にはギターをもった一人の男が座っていました。

男の横顔を見てピートは驚き、駆け寄りました。

「おい、エド⁵じゃないか。こっちですいぶん探したんだよ。こんなところで会えるとは驚きだ。元気だった？ と聞くのもおかしいね。僕より14年も前にこっちに来ていたんだろ？」

「おお、ピート！久しぶりだ。会えて嬉しいよ。君がこっちに来ていたことは今まで知らなかった。で、今日はやっぱりウクライナの件で……？」エドはガッチリとピートの肩を抱きしめて尋ねました

「そう。昨日、僕はとても奇妙な夢を見たんでね」ピートはそう言ってニヤリとしました。

「やっぱりね。僕は花のある場所を探しに行こうと思ってさ」と、エドが笑い返しました。

ピートとエドはとても古い友だちです。第二次世界大戦後、エドはカナダのバンクーバーでラジオの音楽番組のホストを務め、たくさんの歌手をゲストとして招き、もちろん自分でも歌っていました。この番組にピートもゲストで呼ばれたことから、2人の付き合いが始まったのです。エドが作詞作曲した歌を、ピートが歌ってヒットさせたこともありました。

「僕は、深く考えずに衝動的にテラス ゼロに来てしまったけど、君はここからカプセルに乗ったことがあるの？」ピートは尋ねました。

「2014年に一度乗ったよ。今日と同じように、クリミア半島が侵略されたときに、なんとかできないかと、ね」

「で、どうだったの？」

「何もできなかった。僕たちの存在は、下の人たちには見えないんだ。側に行っても誰も気がつかない

⁵エド・マッカーディ(Ed McCurdy)、シンガーソングライター、「Last Night I Had The Strangest Dream」の作者

し、歌を歌っても聞こえない。音楽の力でなんとかならないかと思ったけど、無理だった」
「そうなんだ……歌は聴いてもらえないのか……それなのに、どうしてまた行く気になったのかな？」
「今回は、何かできるヒントを探そうと思ってね。手がかりになりそうなものが見つかったら、仲間を呼ぶように声をかけてあるんだ」
「仲間って、僕も知っている人かな？」
「もちろん！ 君の歌をヒットさせたグループの一人、M 嬢さ」
「エッ、あのマリー⁶かい？」
「そう、あのマリーだ。クリミア半島の報告会をしたときに、彼女が話を聴きに来てくれて再会したんだ。それから、時々2人でセッションをして遊んでいるんだ。今回は、マリーから様子を見に行ってくれと強く頼まれたのさ」
「そうだったのか……早く会いたいものだ」
「そのためには、手がかりを必死で探さなくっちゃ。手がかりを見つけ、ピートも一緒だと伝えれば超音速で下に降りてくるはずさ」とエドは笑いました。

6人乗りのカプセルが出発ゲートに入りました。目的地を地図で選び、その場所を2回タップし、エンターを押すだけで、短い時間でその場所に降り立つことができます。今日は2人でカプセルを独占できたので、すでに相談して決めた場所を指定しました。

ニューヨークのグリニッジビレッジにある「ワシントン・スクエア」が今回の目的地です。フォークソングの原点の一つである公園のベンチで、1週間の行動計画を立てるつもりでした。

見つけたぞ！ 自分たちがやるべきことを

降り立ったそのワシントン・スクエアは、ずいぶんと様相を変えていました。日本でも大ヒットした『ワシントン広場の夜はふけて⁷』という曲で知られ、ビートニックと呼ばれる若者たちや、ミュージシャンを目指す若者たちがあちこちに輪を作り、熱っぽく議論をしたり、ギターやバンジョーを鳴らしながら歌っていた姿はもうありません。

公園の中でくつろいでいる人も少なく、ほとんどの人が中を通り抜けています。若者たちの熱気に溢れた公園は、もうとっくの昔に消え去った光景ですが、ピートとエドにとっては、忘れられない聖地なのです。ベンチに並んで座ると、ピートはエドに尋ねました。

「タイムリミットは1週間。つまり、今からちょうど1週間後に、カプセルが迎えに来るというわけだね。カプセルが来たときに、その場所にいなければ、カプセルはそのまま戻り、僕たちは“無”になると言われたけど、どういうことかな？」

「僕は、前回1週間で戻ったから詳しくはわからない。他の人の話では、上の世界で存在がなくなるだけでなく、下の世界の人たちの記憶からも消え去るということだった」

「そうか、下の世界で生まれ、仲間たちと会話し、飲んで歌って楽しく過ごしたことが、すべてなかったことになるんだね。寂しいようでもあるけど、結局いつかはそうなるのだから、あまり関係ないような気もするなあ」

……しばらく沈黙してからピートは言いました。

⁶ マリー・アリン・トラヴァース (Mary Allin Travers) 1936 年～2009 年、フォークソンググループ、Peter, Paul & Mary のメンバー

⁷ The Village Stompers が 1963 年にヒットさせた曲。原題“Washington Square”。バンジョーが奏でるメロディーが印象的。

「そんなことはどうでもいい。まずは大事なことを確認しておこう。目的はこの侵略を止めることだ。そのために必要なのは考え方を変えることだと思う。僕が上で知り合った、日本の詩人で書家の「みつを」⁸さんという人がいる。彼の言葉で僕が感動したのは、“うばい合えば足らぬ。わけ合えばあまる⁹”というものだ。この言葉はとても深いもの。「シェアすればあまる」って気づくだけで、ほとんどの争いごととはなくなると思うな。で、この本当の意味を理解させるには、どうすればいいかが重要だろうね。それを頭に置いて手探りして、手がかりを探してみようと思っている」

エドは、「そうだね。一番初めは手がかり探した。僕はニューヨーク大学のキャンパスで歌ってくる。君は、ここで歌って手がかりを探してくれないか？ 無観客ライブと同じだから反応はないだろうけど、めげずに頑張るってね……。24 時間後に、ここでまた会おう」

上の世界に行った人間にとって便利なことは、移動マップの画面を出し、そこをクリックするだけで、瞬時に目的地に移動できることです。エドは、アッという間にピートの目の前から消えていました。

公園には、春の初めの暖かい風が吹いていました。

ピートはベンチに座って、バンジョーを組んだ足の上に置いてつま弾き、あの歌を歌い始めました。

♪ 花はどこへ行ってしまったの？ すいぶん長い時が流れたね
花はどこへ行ってしまったの？ すいぶん昔のことだね
花はどこへ行ってしまったの？ 若い娘たちがみんな摘んでいった
おお、いつになったらみんながそれを知るのだろうか？
おお、いつになったらみんながそれを知るのだろうか？

この歌はとてもシンプルな構造です。

2 番になると「花」の所が「若い娘たち」に変わり、若い娘たちはみんな夫を見つけていなくなったとなります。3 番では「若い娘たち」が「若者たち」変わり、若者たちはみんな軍隊に行っていなくなったとなります。ピートがつくった詞はこの 3 番まででした。

その後、この歌を気に入っていろいろなところで歌っていた、ピートの友人の一人であるジョー*¹⁰が、4 番、5 番の歌詞を付け加え、それを、PP&M、キングストントリオ、ブラザーズフォアなどの多くのグループや歌手が歌い、世界的な大ヒットになったのです。

ジョーが付け加えて 4 番、5 番では、軍隊に行った若者たちは、死んで墓場に埋葬され、墓場は花に覆われて見えなくなった。その花を、また若い娘たちが摘んでいったとなり、最初に戻ります。これが人生の「輪廻」を描いたもの、戦争の空しさを歌ったものとして評価されるようになったのです。今ではこの曲は最高の反戦歌として位置づけられています。

ピートは、この曲の 3 番までのものを 1960 年にリリースした「Rainbow Quest」というアルバムの 1 曲目*¹¹に、メドレーの中の 1 曲として収録しています。

翌年にキングストントリオ、翌々年に PP&M が、エドの歌詞を加えたバージョンを発表してヒットさせました。

ピートはこの曲と、エドがつくり自分も収録した『Last Night I Had The Strangest Dream』を交互

⁸ 相田みつを。詩人、書家。仏教の教えを平易な言葉と書で表現することで知られる。1924～1991 年

⁹ If you take something by force, there is never enough. If you share it, there will always be something left over.

¹⁰ ジョー・ヒッカーソン (Joseph C. Hickerson) : 音楽歴史研究家。1935 年～

¹¹ 1 曲目は 6 曲のメドレー。この歌は 3 番目に収録。4 番目の曲では『原爆を許すまじ』をきれいな日本語で歌っている。

に歌い、周囲の様子を眺め、何か手がかりがないかを探しました。

エドの曲でいう「最高におかしな夢」とは、ざっと次のような内容です。

♪ 昨晚とてもおかしな、これまでに見たこともない夢を見た
世界中で戦争を終わらせる合意ができた夢だ
夢の中ではとても大きな部屋に多くの人が溢れ
2度と戦争はしないという書類にサインした。

～

♪ この声明を印刷したたくさんのコピーがばらまかれ、
それを見た人たちは踊り出して喜び、
兵士たちは銃や剣、そして軍服を地面に捨て去った

これは誰もが願う、実に当たり前の内容の夢ですが、それを「最高におかしな夢」と言わなければならない時代がとても長く続いてきたことは、寂しく、悲しい事実です。ピートやエドは、歌の力の限界を知りつつ、それでもなんとかおかしな夢を実現したいと、歌い続けているのです。

2人だけではなく、平和を願う多くの歌手や作家、表現者たちは、自分たちの心からの思いを、自分たちができる方法で、繰り返し繰り返し発信しているのです。

ピートは、上から見て、目に焼き付けたウクライナの惨状を思い浮かべ、なんとかそれを止めたいと願いながら歌い続けました。しかし、人々はなんの反応もなく通り過ぎるだけでした。ピートの姿は見え、歌声も聞こえていないのだから当たり前ともいえますが……。

24時間が経ち、エドが戻ってきました。結果はエドの顔を見てすぐにわかりました。

「やはり、手がかりを得られなかったか……」

2人はそれぞれの24時間の情報を交換し、大きなため息をつきました。しかし、あきらめるわけにはいきません。気を取り直して、2人でデュエットすることにしました。

Aメロ、Bメロをそれぞれソロで歌い、サビをハモるという普通のスタイルで歌い始めました。ソロのときは、昨日と同じ無反応でしたが、サビではちょっとした変化が起きたのです。サビの部分になると、立ち止まる人が増え始めました。2人は顔を見合わせてニッコリしました。

「ユリーカ^{*12}！ ハーモニーだ！ それが手がかりだ！」

試しに、ソロの部分にもハーモニーをつけて歌ってみました。時間が経つにつれ、広場の中は多くの人で溢れ、熱心に話し合う人たち、歌を歌う人たちが見られました。昔のワシントン・スクエアの熱気が戻ってきたようでした。

「僕たちの歌は聞こえなくても、ハーモニーが生み出す波動が伝わるんだ。波動が、みんなの心に伝わり、議論や合唱が始まったんだと思う」とピートは笑みを浮かべました。

それを確かめるため、2人はニューヨーク大学のキャンパスに移動し2人の2曲をすべてハーモニーで歌ってみました。すると、思った通りキャンパスに熱気が溢れ始めたのです。

エドは、交信端末からマリーにメッセージを送りました。「手がかりを見つけたぞ。できるだけ早く来て欲しい。いつ来られるかな？ 一緒に誰かを連れてきてもらった方が、僕たちの作戦の成功確率が高まるんだ！ できれば、みんなが知っている人間のほうが戦力がアップする」。

¹² Eureka: アルキメデスが浴槽で浮力を発見したときに叫んだとされる「見つけたぞ！」を意味する言葉

しばらくするとマリーから連絡が来ました。
「12 時間後にそこへ行くわ！ ご希望通り、ビックリする人たちを連れてね」

素晴らしき 7 人の偉大なる挑戦

12 時間後——

現れたマリーの隣の男性を見て、ピートは驚きました。ボブ¹³だったのです。そして、その後に続いてきた 3 人を見てさらにビックリ。

ニック¹⁴がいました。ジョン¹⁵がいました。それにデイブ¹⁶まで！

凄い！ 第 1 世代と第 2 世代のキングストントリオが勢揃いだ。

ピートとエドはそれぞれハグを交わし、再会を喜び合いました。ピートはデイブの姿をととても嬉しく感じ、握手とハグを繰り返しました。デイブはピートから贈られた『5 弦バンジョー弾き方』という本で腕を磨きました。そして、あの“Where have all the flowers gone?”をキングストントリオが録音したときに、ピートが最初に電話したのがデイブでした。

そのとき、デイブはグループを辞め、ジョンが代わって参加することが決まっていた。だから、デイブは録音に参加していませんが、重要なキーマンです。今日こちらに降りてきた 5 人は、すべてあの曲の関係者だったのです。

ピートとデイブは、5 人にハーモニーが伝える波動の説明をし、波動の強さを確かめるため、組み合わせと人数を変えて試してみました。

その結果、波動の強さに関係するのは、人数だという結論を得たのです。

いよいよ、7 人による波動大作戦の開始です。

波動を強くするためには、共感する人数を増やすことが必要だ。そして 7 人が今いる世界とリアルな世界を繋ぐキーマンを増やすことも必要でしょう。この人たちは、行ってみれば「増幅装置＝アンプ」の役割をしてもらうわけです。キーマンは、まず自分たちと関係が深いことが重要で、そして人々に馴染みのある人がいいだろうということでキーマン選びを始めました。

この条件で話し合い、マリーとグループを組んでいたピーター¹⁷とポール¹⁸はすぐに決まりました。そして、ピートとは浅からぬ縁のある大物、ノーベル文学賞を受賞したもう一人のボブ¹⁹も選ばれました。

ピーターとポールの所には、A チームのエドとキングストントリオのボブ、そしてもちろん、マリーも向かうことにしました。もう一人のボブの所には、残りのピート、デイブ、ニック、ジョンの B チームが向かいます。それぞれ、キーマンがいるところを探し、その近くで平和を願う歌をハモって波動を送り、侵略戦争をハーモニーの力で止めようというメッセージを送るというシンプルなプランです。

波動は、親しさの度合いで伝わる力が変わります。彼らなら、自分たちの想いをしっかりと受け止め、彼らが現実の世界でやるべきことを理解し、そのための行動を開始してくれるはずだと考えたのです。

もう一つの作戦は、ラジオ局に波動を伝えることです。ラジオ局のプロデューサーやディレクターたちに波動が伝わることで、彼らが流す音楽の力で、リスナーにも波動が伝わって欲しいと願いました。テレ

¹³ ボブ・シェーン (Bob Shane)、The Kingston Trio の創設以来のメンバー、1934～2020 年

¹⁴ ニック・レイノルズ (Nick Reynolds)、The Kingston Trio の創設からのメンバー、1933～2008 年

¹⁵ ジョン・スチュワート (John Stewart)、The Kingston Trio の第 2 期からのメンバー、1939～2008 年

¹⁶ デイブ・ガード (Dave Guard)、The Kingston Trio の第 1 期のメンバー、1934～1991 年

¹⁷ ピーター・ヤロー (Peter Yarrow)、Peter, Paul & Mary のメンバー、1938 年～

¹⁸ ノエル・ポール・ストゥーキー (Noel "Paul" Stookey)、Peter, Paul & Mary のメンバー、1937 年～

¹⁹ ボブ・ディラン (Bob Dylan)、シンガーソングライター、1941 年～

ビ局は、規模も大きく決定に時間がかかるので、小回りが利くラジオ局に絞ったのです。

7人は、連日この2つの作戦を実行していきました。

Aチームは、マリーの案内でピーターの自宅に向かい、近くの公園に陣取って歌い始めました。歌い続けていると、一台の車がピーターの家の前で止まりました。出てきたのは、もちろんポールです。ハーモニーが必要だという波動のメッセージが届いたのでしょう。

Bチームは、ボブが曲作りをしているスタジオを探り当て、その駐車場でセッションを始めました。しばらくすると、男女のカップルが駐車場に現れました。ボブは、なんとジョーン²⁰と一緒にいたのです。2人は同じ車に乗り、15分後には袋を抱えて戻ってきました。恐らくハンバーガーか何かを買って来たのでしょう。かつては恋人関係で、とくに分かれていたはずですが、どうやら歌に関しては別物だったようです。お互いに認め合っているということなのでしょう。Bチームは、2人に向けて波動を送り、自分たちがやるべきことに気づき、行動を開始することを願いました。

彼らの思い通り、3人、オットとジョーンが加わって4人になったキーマンは、それぞれテレビやラジオで平和のメッセージを語り、戦いの空しさを伝える歌を歌い始めました。ノーベル賞のボブはジョーンと一緒に『風に吹かれて²¹』や『戦争の親玉²²』を歌い、ピーターとポールは、久しぶりに2人で『悲惨な戦争²³』をいろいろな場面で歌い続けたのです。

多くのラジオ局も、数多くの平和の歌、反戦歌を流し始めました。

そして、ついに驚くべき決定を7人は耳にしました。

セントラル・パークで「ピース・エイド」が開催され、多くの歌手が参加することが決定。それを世界中の多くのラジオ局が、同時に放送することになったのです。ボブとジョーンが呼びかけ人となり、それに真っ先に呼応したのがピーターとポールで、30組以上の歌手とグループの参加が決まったのです。このピース・エイドは、「ソロ歌手も、ソロではなく誰かとハーモニーで歌を聴かせる」ことが宣言されていました。

しかし、ピートとエドには困ったことがありました。ピース・エイドの開催日は2人が戻る日の翌日だということです。5人は、自分たちに任せて前日に戻れと説得しました。

ピートとエドは、2人だけで話したいと言い、その場を離れました。

まもなく2人は5人のところに戻り、「前日に上に戻ることにしたけどよろしく。ピース・エイドの時間には上から波動を送るから」と伝えました。

若者5人は、「先輩方、安心してまかせてください。必ず成功させて上に戻りますよ。上で再会しましょう」と真剣な顔で宣言しました。

7人は、ピース・エイドまでに、少しでも多くの人の波動を集めようと、世界中のラジオ局に移動し、ハーモニーで波動を送ることを続けました。

そして、いよいよピース・エイド開始の24時間前に近づきました。ということは、ピートとエドを迎えるカプセルの時間が迫ってきたということです。7人はセントラル・パークに組み上げられた舞台の前で、綿密な最終打合せを終え、期待と不安の混じった表情でお互いの顔を確認していました。

²⁰ ジョーン・バエズ (Joan Baez)、シンガーソングライター、1941年～

²¹ “Blowing In The Wind”

²² “Masters of War”

²³ Cruel War

ピートとエドは「出発の時間だ。ワシントン・スクエアに戻るね。後はみんなに任せた。Good luck!」
と言い放ち、移動ボタンを押して、瞬時に姿を消しました。

……2人が移動したのはワシントン・スクエアではなく、セントラル・パークの反対側でした。先日、
2人だけになったとき、ピートはエドに尋ねていたのです。

「君も僕と同じ考えだろ？ 表情を見てわかったよ」

「そう、残って結末を見届けないわけにはいかないよ」

「OK、では消滅作戦を開始しよう。彼らには、前日に戻ると伝えよう。でも、実際は2人でカプセルを
やり過ごして“無”になろう」

「ラジャー、“無”になったらどうなるかわからないけど、僕たちが手探りで始めたことの最後をしっかりと
見届けなくちゃいけないね。そのためにも、セントラル・パークに居座ろうぜ」

そして、カプセル到着の時間まで、ハーモニーで波動を送り続けました。

♪ 花はどこへ行ってしまったの？ すいぶん長い時が……

と歌っている途中で、2人の姿も声も消えました。

2人とも“無”になったのです。

セントラル・パークでは、ピース・エイドの主催者であるノーベル賞のボブとジョーン、ピーターとポールが舞台のチェックを行っていました。そして、恐らく最初の曲に選ばれたと思われる曲を歌い始めました。それはノーベル賞のボブがつくった“Blowing In The Wind”でした。

1番を聞き終えたニック、ボブ、ジョン、そしてデイブは唖然としていました。ステージの4人も、曲の最初からハモっていたのです。

そこからすさまじい波動が発生し始めました。

マリーは1人でニヤニヤしながら頷いていました。心の中で、「私がピーターとポールと一緒に歌っていたところを思い出して、心の中で懸命に歌ったから、波動が大きくなったのよ」とほくそ笑んでいました。

男たちは、「やっぱり一流のミュージシャンは違うなあ」「ハモることで波動を送れるというメッセージが届いたんだね」と口々に疑問を語りました。そして、明日のピース・エイドの成功を確信したのです。

実は、メンバーがAチーム、Bチームの二手に分かれとき、ピートとエドはそれぞれ「ハーモニーがとても重要だ!」というメッセージを強く送っていました。ノーベル賞のボブ、ピーターとポールは。そのメッセージを正確に受け取り、それが後から加わったジョーンにも伝わっていたのです。

ピース・エイドが始まるとすぐに、セントラル・パークから大きな波動が舞い上がり、歌手たちがメロディーを重ねてハモっていくと波動は時間とともに増大していきました。

それを、放送し始めたラジオ局と、送信アンテナからも波動が起きました。世界中のあちこちのラジオ局の波動と、セントラル・パークの波動は1つにつながりやがて地球全体を包み込んで行きました。

そして、その波動が戦争地帯に届くと、驚くべきことが起きました。

兵士たちがライフルやマシンガンを放棄し、戦車や装甲車、輸送トラックは向きを反対に変え、故郷へと向かい始めたのです。武器を捨てた若い歩兵たちは、軍服とヘルメットを脱ぎ捨て、故郷に帰るトラックに向かって歩き始めました。

1人の兵士は、道ばたに咲いている小さな白い花を見つけると、その花を手折り、道路脇の群衆の中に

いた小さな女の子の髪に差し、「とても似合うよ」と涙を流しながら声をかけたのです。

ピース・エイドエイドの会場にも、この戦場の様子が伝わり、ジョーンがステージの中央に立ち、” We shall overcome” をゆっくりとしたテンポで歌い始め、2 番になるとボブ、ピーター、ポールが加わり、少しだけ速いテンポでハモリ始めました。そして、3 番からはポールが会場に促し、全員の大合唱が始まりました。

♪ *We shall overcome ~*

♪ *We'll walk hand in hand ~*

♪ *We are not afraid ~*

♪ *We shall overcome, someday ~*

「♪僕たちは乗り切れる～♪手に手を取って行進しよう～♪何も恐れることはない～♪世界は、いつかは 1 つになれる」と大合唱は繰り返し、繰り返し続き、数千人が生みだしたハーモニーは、とてつもなく大きな波動となって宇宙にまで広がっていくようでした。

このころには、すべての戦場から銃声や砲声が、完全に消え去っていました。



昨日までピートであった存在は、音にならないメッセージを受け取りました。

「ピート、聞こえるかい？ いや。感じるかい？ 僕のメッセージを」

「ああ、エドしっかり感じているよ。僕たちはみんなでやったね！

戦場の光景は、まさに The Strangest Dream じゃないか！」

「まだまだ Stranger Dream だね。♪ *The paper they are signing said they never fight again* が実現するまではね」

「よし、それまでは、“完全な無” にはなれないな。たぶん僕たちは、あの大きな波動の一部になったんだよ。そして波動の中で、こうやってコミュニケーションができるんだろうな」

「ピート、それはとてもいい解釈だ。たぶん、そうだ、な」

「この“無” の状態も、とても快適じゃないか。移動デバイスがなくても、どこにでも瞬時にいける感じがする」

「うん、そうそう。歌もうまく歌えるようになったと思うな」

この2人のコミュニケーションは、マリー、ニック、ボブ、ジョン、デイブも「傍受」していました。上に戻り、ピートとエドが“無” になってしまったことを嘆いていましたが、そのコミュニケーションを感じられて、ようやく安堵しました。

この地球から、戦場がなくなり、消え去った花が戻るまで、歌い続ける存在がいることを私たちは、しっかりと覚えておかなくてはなりません。

歌い手たちが消えても、彼らの歌はそれを歌う人、聴く人がいる限り生き続けるのです。



オッと忘れていました。主人公のピートは、アメリカのシンガーソングライター、モダンフォークソングの父ともいわれる Pete Seeger (1919～2014 年) です。彼は、数多くの平和を願う歌を歌い続け、たくさんのミュージシャンに大きな影響を与えました。

* 参考文献:『虹の民におくる歌 (Songs for Rainbow Race)』(ピート・シーガー著、社会思想社刊、2000 年 6 月発行)

* 参考映像:NHK『世紀を刻んだ歌 Where have all the flowers gone? 花はどこへ行った～静かなる祈りの反戦歌』(2000 年 1 月放映)